



①瑠璃光寺

寺伝では天平勝宝4年(752年)に行基により開基したと伝えられ、天正4年(1576年)、織田信長が松永久秀を信貴山城に攻めた際に焼失し、その後慶安4年(1651年)に再建されました。本尊の薬師如来も行基の作と伝えられます。

わかやまとひこじんじゃ

②若倭彦神社

平野地区の産土神で建筒草命ならびに若倭彦命を祀る式内社です。

6世紀頃にこの地で繁栄した若倭部連がその祖先を祀ったものとされています。古事録には「貞観元年(859年)従五位下ヲ授ク」と記されています。

ぬでひこぬでひめじんじゃ

③鐸比古鐸比売神社

祭神は鐸比古命、鐸比売命で式内社です。かつては高尾山の山頂に祀られていましたが、道が険しいので中世に現在の場所に遷されました。

昔に日照りが続き作物が枯れ、大変困ったとき雨乞い祈禱をしたところ、大雨が降り村人が喜んだという話が伝えられています。

天正5年(1577年)には織田信長の長男信忠が松永久秀を討つための拠点とし、信貴山城攻略の後、新地50石と石燈籠一対を寄進しました。



④太平寺地区の町並み

「大阪ミュージアム構想」のモデル地区として整備が完成した太平寺地区。ぶどう栽培によって栄えた古民家の街並みや、山すそに広がるぶどう畑の風景など魅力ある資源がたくさん残されています。

また、平安時代の貴族で六歌仙のひとり、伊勢物語の主人公とされる在原業平が奈良県の天理から高安の女性のもとに通ったとされる「業平道」があり、平安時代の逢瀬に思いを馳せることができます。

⑤高井田横穴古墳群壁画と史跡高井田横穴公園

高井田横穴古墳群は生駒山地の南端、大和川に接する小さな丘陵にあります。6世紀なかばから7世紀にかけてのお墓の一種で約160基が確認されています。

そのうちの27基に船や馬、鳥などの線刻壁画が描かれており、中でも「ゴンドラに乗る人物」が描かれた第3支群5号墳の横穴は最も有名なものです。

樹木の根やカビ、自然環境などの複合する原因で、はく落の危機にありましたが、横穴上部の樹林地や横穴内部の環境改善工事を行い、危機を乗り切りました。

保存状態を保持するため、春と秋の年2回の一般公開に制限されていましたが、現在はガラス越しにいつでも見学ができるようになりました。また、横穴の入り口にレプリカも設置され、壁画の詳細な様子も見るすることができます。

